

# 市役所新庁舎基本設計



北西から見た外観イメージ

本年4月から新庁舎の設計業務を進めておりますが、このたび基本設計を取りまとめましたので、その概要をお知らせいたします。この基本設計は、本年3月に策定した長門市庁舎建設基本計画に基づいて、庁内プロジェクトチームでの協議や市議会への中間報告を経て、取りまとめたものです。

## 基本的な考え方

市民の「安心・安全」の拠点となる万全の防災庁舎

大地震が起こった際でも庁舎機能を維持できる免震構造の採用や、浸水を考慮した1階床レベルの設定、ライフラインの途絶対策となる自家発電装置の設置などにより、あらゆる災害に対しても利用者の安全を確保するとともに、災害時には直ちに災害対策拠点として機能する庁舎とします。

市民広場は災害時に救護物資の受け入れに対応可能な計画とします。

「長門市らしさ」を体感・発信できる木造庁舎

柱、梁などの構造材や天井、床などの内装材に長門市産の木材を有効活用し、安らぎと温かみのある木造庁舎を実現します。市民広場に面してさまざまな市民活動の場となる「市民ロビー」を設け、市政情報や観光・文化情報などを体験・発信する空間とします。

すべての利用者にとって使いやすい快適な庁舎

ユニバーサルデザインを徹底し、利用しやすい窓口空間とします。また、多目的トイレや授乳室などを設置します。

乳室などを設置します。庁舎の構成が一目でわかる、庁舎の核となる吹き抜け空間を設け、視認性・利便性を高める計画とします。

気候風土を活かし、自然エネルギーを有効活用した庁舎

吹き抜け空間による、自然採光や自然通風、免震空間を活用した地中熱利用など、長門市の気候風土にあわせて自然エネルギーの活用を目指します。また、維持管理コストを考え、省エネルギー技術を組み合わせ、実効性の高い環境配慮計画とします。

## 配置・平面計画

新庁舎は5階建てとし、現在の敷地南側に配置します。新庁舎の西側には、市民の憩いの場となる「市民広場」を設け、その広場を囲むように平屋建ての「市民ロビー」と「回廊」を設けます。

庁舎内は業務上の連携がある部署を可能な限り同じ階に配置し、階ごとに明確にゾーニングされた構成とします。窓口部門を低層階に集約することで、利用者にはやさしく、わかりやすい庁舎とします。

## 環境配慮機能

中央に採光・通風の吹き抜け空間を設置し、トップライトから自然光を取り入れたり、煙突効果を利用した自然換気により、照明・空調負荷を低減します。

また、地下の免震空間に外気を取り入れ、地熱を利用して予冷・予熱し、外気の1次空調処理を行います。夏場は多機能ひさしによる直射日光の遮断や複層ガラスなどによる断熱性能の向上により日射負荷を抑えます。

## 防災機能

免震構造の採用により大地震後、構造体の大きな補修を行うことなく建物を使用でき、人命の安全確保に加えて、十分な機能確保が図れる庁舎とします。

また、災害時のライフラインの確保として、発電機やオイルタンク、上水・雑用水受水槽、非常用汚水槽を設置し、災害時に対応できる十分な容量を備えます。

問い合わせ

総務課庁舎建設準備室

TEL 23-1197



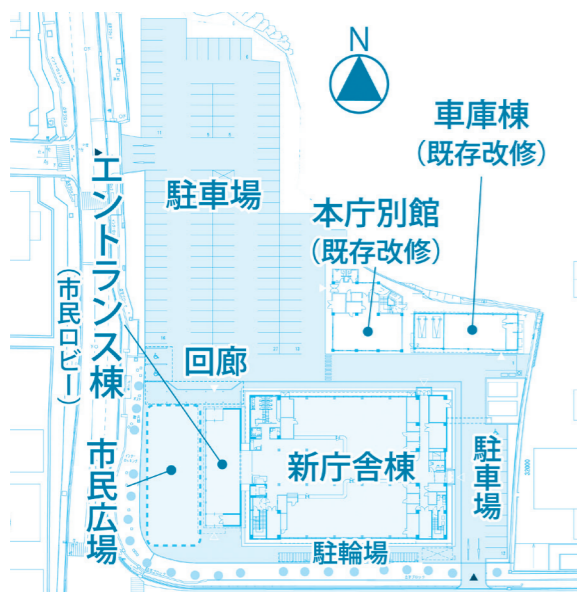
▲わかりやすい窓口カウンターイメージ ▲地元産木材を利用した庁舎イメージ

## ■建物の概要

	新庁舎棟	エントランス棟
構造・規模	木造+RC造 (免震構造)	木造+RC造 (耐震構造)
	5階建て	平屋建て
建物高さ	26.00m	4.60m
建築面積	1,765.14㎡	
延床面積	6,879.72㎡	216.00㎡

▲2階交流ロビーから見た内観イメージ

▼庁舎配置図



## ■庁舎建設スケジュール

	H28	H29	H30	H31	H32
基本設計	→				
実施設計		→			
新庁舎建設工事			→		
現庁舎建設工事				→	
別館・車庫棟改修工事				→	
外構工事					→

## ■全体事業費

種別	金額(万円)
新庁舎建設工事	380,000
別館・車庫棟改修工事	7,000
外構工事	27,000
既存施設解体工事	12,000
その他	49,000
合計	475,000

## ■財源

種別	金額(万円)
合併特例債	300,000
庁舎建設基金	100,000
補助金	55,000
一般財源	20,000
合計	475,000